

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第6学年

【単元名】 「筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう」

（『鳥獣戯画』を読む）光村図書 全8時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
(1) オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うこと。	<p>C 読むこと</p> <p>ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。</p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。</p> <p>カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。</p>

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「時計の時間と心の時間」筆者の考えに対して自分の考えをもった。
・筆者の考えと事例との関わりを捉えて読み、自分の考えを発表した。

働かせる見方・考え方：筆者の評価が表れている表現に着目し、筆者のものの見方や考え方と結び付け、書き出しや文末表現と論の展開を関連付けること。

段階	学習活動（時間）	留意点
第一次	1 挿絵の『鳥獣戯画』を見たときの感じ方と筆者の感じ方を比べて初発の感想を書く。（1）	<p>単元の見通しをもつ</p> <p>☞『鳥獣戯画』についての自分の見方を紹介する活動があることを知り、単元の見通しをもてるようにする。</p>
<p>単元を通した学習テーマ：『鳥獣戯画』の自分の見方をしようかしよう。</p>		
第二次	2 筆者が『鳥獣戯画』についてどのような見方をして評価しているかを読み取る。（2）	<p>前単元の既習事項を生かしめあてをもつ</p> <p>☞筆者の評価を表す言葉を手がかりに、筆者のものの見方や感じ方を捉えられるようにする。</p>
	3 筆者が自分の見方を読み手に効果的に伝えるための表現や構成の工夫を見付ける。（2）	<p>特徴的な表現（教材の価値）に着目して解釈する</p> <p>☞書き出しや文末表現などに着目し、筆者が論を展開する上で工夫したことを考えられるようにする。</p>
	4 『鳥獣戯画』を見ての自分の見方を言葉にしてまとめ、互いのものを発表しあう。（2）	<p>考えを形成し、共有する</p> <p>☞筆者の見方を踏まえ、自分の『鳥獣戯画』の見方をまとめて発表し合い、互いのよさを捉えられるようにする。</p>
第三次	5 単元を振り返る。（1）	<p>自分の学びを振り返る</p> <p>☞単元で何を学んだのか振り返る中で、自分の学びを自覚できるように言葉でまとめられるようにする。</p>

次単元へのつながり：「伝統文化を楽しもう」

現代でも楽しまれている伝統文化（狂言）について知り、昔の意図のものの見方・感じ方を捉える。